



中長期計画1年目の優良品種の開発等の成果

育種部長 星 比呂志

平成28年度から始まった第4期中長期計画において、品種開発等の分野については、ニーズに対応した優良品種等の開発、育種期間短縮のための高速育種技術の開発、優良品種等の普及のための技術開発を行う計画です。ここでは、1年目である平成28年度の成果の概要を説明します。

平成28年度においては、エリートツリーを53系統、優良品種を47品種開発しました(24号参照)。今後、基準を満たすエリートツリーは、特定母樹に申請していきます。また、優良品種のうち、8品種がスギの花粉症対策品種で、このうちの1品種は爽春を改良して開発した成長に優れた無花粉スギ品種「林育不稔1号」です(24号参照)。また、33品種がマツノザイセンチュウ抵抗性品種で、うち17品種は抵抗性品種同士を交配して開発した第2世代の抵抗性アカマツ品種、12品種が第2世代の抵抗性クロマツ品種です。今後も引き続き、エリートツリーや成長が優れた少花粉品種、無花粉品種さらには第2世代のマツノザイセンチュウ抵抗性品種等の開発を進めていきます。

また、技術開発の分野では、爽春の無花粉遺伝子を高い精度で判定できる遺伝子マーカー

を開発し、これにより、今後の無花粉スギの品種開発の大幅なスピードアップが期待できるなど、大きな進展が見られました。今後は、少花粉品種の開発の加速化が期待できる、「スギ雄花着花特性検査の高度化事業」に多くの都県と連携して取組むなど、引き続き、高速育種技術、普及技術の開発を進めていきます。

また、エリートツリーと優良品種の普及については、エリートツリー(主として特定母樹に指定されたもの)、花粉症対策品種、マツノザイセンチュウ抵抗性品種等について、39都道府県等に向けて、平成27年度を上回るおよそ1万5千本以上の原種苗木等を配布するとともに200件以上の技術指導を実施しました。今後も都道府県等の要請に基づき優良品種の原種苗木等の計画的な配布や技術指導を進めて行きます。

以上のように、昨年度は5カ年の中長期期間の1年目としておおむね順調なスタートを切ることが出来ました。今年度以降も、地域のニーズに対応した優良品種等の開発と各種の技術開発を進めていきます。皆様のご理解、ご協力をお願いする次第です。

【紙面紹介】

| | | | |
|------------------------|---|--------------------------|-----|
| 第2世代抵抗性アカマツの開発…………… | 2 | 次世代シーケンサーを用いた | |
| 東北育種場におけるカラマツ特定母樹に対する | | SNPジェノタイピング…………… | 5 |
| 取組み…………… | 3 | 海外林木育種事情調査 | |
| 「爽春」の無花粉遺伝子を高い精度で判定できる | | イギリス王立キュー植物園ミレニアムシードバンク | |
| DNAマーカーの開発…………… | 4 | …………… | 6~7 |
| | | スギ雄花着花特性検査の高度化事業の開始…………… | 8 |



国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所 林木育種センター

Forest Tree Breeding Center, Forestry and Forest Products Research Institute